

高松市が目指すオンライン授業とは

～1人1台端末をインターネット回線に接続して行う新たな学びの姿～

高松市総合教育センター₁

1 将来に向けての構想

個別的な学び

- 知識の定着を図る(AI)ドリル
- 学びの履歴(キャリアパスポート)
- 個に応じた調査活動
- 個別な表現物の作成、保存



協働的な学び

- 即時的な共有、協働作業
- 協働での意見の整理
- 電子黒板等を活用した話し合い
- 協働制作



一人一台
クラウドの活用

個別最適化された学びの実現

世界中の多様な他者とともに新たな価値を創造する

ビデオ会議システムを生かした学び

- 他校(他学級)との合同授業
- 外部講師との交流
- 仮想校外学習
- 不登校、入院児童生徒の授業参加
- 学校と家庭との双方向授業



求めるオンライン授業の構造図



2 勝賀中学校で実施したオンライン授業

A 複数の教室に分かれての一斉授業

学校全体や学年全体で1か所に集まることができない時や、分散登校などの場合に教室は違っても同じ授業を受けることができる。

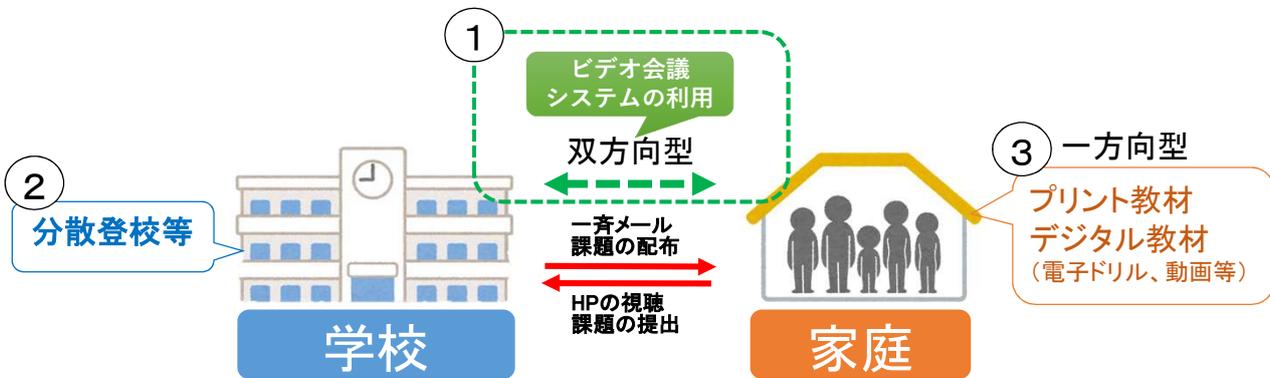
B 学習ドリルに挑戦

ID認証で学習ドリルのシステムに接続し、個別に取り組む。採点はAIが行い、教員は教師用端末から学習状況を把握できる。家庭からのアクセスも可能であり、自宅で学習を進めることができる。

C 地域プロスポーツ選手と交流しよう

離れた場所であっても、オンラインでつながることで、普段接することが難しい人との交流を可能にする。校外学習の代替ともなる。

3 学校と家庭との双方向によるオンライン授業

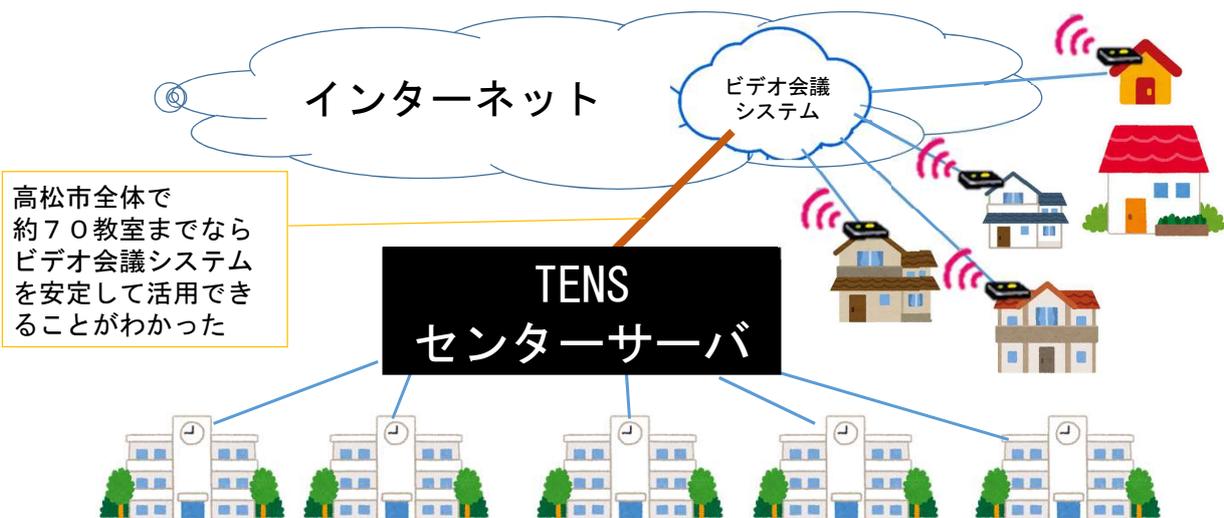


それぞれを組み合わせ、臨時休業の際にも「学び」を止めない仕組みをつくる

5

4 今の環境でできるビデオ会議システムを活用した授業

各校1学級に限定すれば、家庭との双方向のオンラインが可能



6

5 構想の実現に向けた課題の整理

目指す姿

個別的な学び

- 知識の定着を図る(AIドリル)
- 学びの履歴(キャリアパスポート)
- 個に応じた調査活動
- 個別な表現物の作成、保存



一人一台
クラウドの活用

協働的な学び

- 即時的な共有、協働作業
- 協働での意見の整理
- 電子黒板等を活用した話し合い
- 協働制作



個別最適化された学びの実現

世界中の多様な他者とともに新たな価値を創造する

ビデオ会議システムを生かした学び

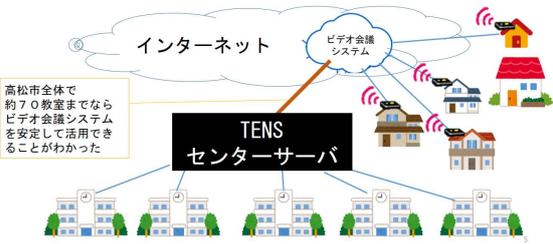
- 他校(他学級)との合同授業
- 外部講師との交流
- 仮想校外学習
- 不登校、入院児童生徒の授業参加
- 学校と家庭との双方向授業



2

現在

各校1学級に限定すれば、家庭との双方向のオンラインが可能



「いつでも」「どこでも」「何台でも」つながる環境の構築に向けて。

1 ネットワーク回線の増強

- 学校内…令和2年度中(GIGAスクール構想)
- 学校外…構成を見直し中

2 教師と子どものスキルの向上

- 通常の授業の中で活用を進める
- 研修会の実施
- 家庭との連携(家庭の理解促進)

3 家庭環境のフォロー体制作り

- 家庭環境の実態調査(概要把握調査は済み)
- 端末の準備(学校の端末の貸出、IP設定の変更)
- 回線の準備(モバイルルータの貸出、地域での環境づくり等)

7